

■巻頭言 武庫川マブチが支配介入の不当労働行為■

ユニオン辞めたら賃金補償したる！

滋賀県労働委員会に救済申し立て（八・二）

マブチのゼロ回答は組合潰しが目的　ダイハツ滋賀第二工場と竜王工場で構内請負会社マブチのブラジル人労働者一六人が二〇〇六年三月にマブチ分会を結成し、二カ月雇用期間の延長、賃金の引き上げ、一時金の支払いなどを求め闘いを進めてきました。会社は「二カ月契約に賃金の引き上げも一時金の支払いも必要ない」と、私たちの要求を突っぱね一切の歩み寄りをしてきませんでした。

私たちは、要求の前進を目指し五月三十一日、始業時からのストライキに突入しました。ストライキにはひようごユニオンはもちろん、きようとユニオン、滋賀地域ユニオンの仲間の支援も得て成功しました。（「通信」第九七二号「おたより」参照）

組合脱退を強要　会社はいったん妥協するかのようなポーズを見せましたが、組合員の職場に正社員を配置し、「ストライキをされても、仕事には全く影響はない」と挑発の態度に出てきました。団体交渉で訴えてもストライキで闘っても何の成果もでない現実に、組合活動を始めたばかりの組合員たちに動揺が始めました。

会社はこの動揺を捉え、「何回交渉しても会社は何も回答しない」「組合を辞めたらストライキでカットした賃金と皆勤手当分を支払う」と説明し、厭戦気分陥った組合員たちが脱退の方向に傾き始めました。会社は、脱退し賃金カット分をもらおうとした組合員たちに、便せんを準備し、脱退届の書き方（日本語）を教えました。ご丁寧に武庫川ユニオン宛の封筒も用意し、宛名書きはユニオンが会社に送付した封筒の住所・氏名欄をコピーし貼り付けました。

六月二十七日、会社は脱退希望者に印鑑をもって来るよう指示し、脱退届を見本の通り書かせ、捺印し、近くのコンビニにあるポストに脱退届けを投函したことを確認の上、返還するとしてカット分を手渡すという念の入れようでした。

不当労働行為を追及　分会委員長のワカバヤシ・シルビオ君も呼び出し、同様の手口で脱退強要を図りましたが、ワカバヤシ君は、毅然と拒否し闘う道を選択しました。一六人で出発した闘いでしたが九人が脱退し、一人が会社を辞め、現在六人で闘い抜く決意を固めました。

六月三〇日に団体交渉を行い、会社の不当労働行為を追及しました。しかし会社は不当労働行為はないとし、調査をするとした代理人弁護士（石寄法律事務所）から、回答が送られてきました。労働組合を愚弄する内容の文書です。一部を紹介します。

「貴組合が日本の事情を充分認識しない外国人労働者をそそのかし、かつ、そのため、組合費、ストライキ関係費用及び賃金カットによる生活苦に追い込んだことにより精神的に追い込まれた組合員に対し、貴組合が何ら救済の手を差し伸べようとしな

いため、当該組合員たちは貴組合に愛想を尽かし当社に救済を求めてきたことから、当社は貴組合に配慮しながらも、その外国人である当該組合員らの救済にあたったものであり、当社は貴組合から感謝されることはあっても、これをもって不当労働行為だと言われることは許さざる暴言であり、筋違いも甚だしい」と。

団結の中身を再点検し組織の強化 マブチ分会を結成するとき、要求の前進は簡単ではないこと。仲間を裏切らず粘り強く闘うことを確認してきたはずだった。しかし、会社が提示したほんのわずかなお金で組合員が脱退してしまった。残念でならない。しかしこれはブラジル人たちの場合、言葉の問題もあり難しいはずまされない。私たちは、これまでも分会の組合員の脱退を経験してきた。小さな個人的な感情の対立や、意見の違いから組合から脱退してしまう経験をしてきた。

加入したばかりの組合員、様々な意識水準にあると思う。労働組合の必要性を学ぶことはそんなに容易なことではないかも知れない。組合の団結が弱いときでも、要求が前進しているときは何とか団結体は維持できるかも知れない。しかし、闘っても闘っても要求が前進しないとき、思ったような成果が得られないときにこそ労働組合の真価が問われる。

マブチ分会は六人になりましたが、意気消沈はしていません。分会員は減りましたが、ストライキは滋賀地域のブラジル人労働者に大きくアピールし、労働相談が増えました。月に一回学習会を開催することも決めました。

外国人差別、有期雇用差別を社会的にアピールし全国の仲間と連帯し闘い続ける団結を固める決意です。

全国の仲間へ感謝 マブチへの抗議FAX、またカンパをお願いしたところ、早速カンパ頂いたり、物資販売のご協力を頂いたみなさん、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

今後ともよろしくお願いします。皆さん方の物心両面のご支援に込えられるよう、前進を目指します。

● 抗議FAX先は次のとおりです。

(株) マブチ本社、代表取締役社長 鈴木秀治

〒231-0005 横浜市中区本町二-15 横浜大同生命ビル9F

TEL 045-210-0055 FAX 045-210-0061

(株) マブチ 滋賀二事業所 事業部長 飯田 敏雄

〒520-2593 滋賀県蒲生郡竜王町大宇山之上三〇〇〇 ダイハツ工業(株)内

TEL 0748-57-8101 FAX 0748-57-8101

● ストライキ闘争カンパのお願い

郵便振込 01160-1-36300 近畿労金尼崎支店(普通) 1334896

● いずれも武庫川ユニオン名義です。カンパとわかるように明示してください。

カストロとキューバ

— 現代の情勢について (上) —

カストロさんが米国のかいらい政権だったバチスタを打ち倒したのは、一九五九年一月一日でした。キューバ革命からもう四七年もたったんです。カストロさんの無二の親友が、グランマ号でモンカダ營兵を襲撃以来の同志、世界各国の若者に今なおお気あるチェ・ゲバラさんでした。この時の志はカストロさんの『歴史は私に無罪を宣告するであろう』との裁判の演説にはつきり示されています。キューバが社会主義を宣言した一九六〇年代後半、「第二のキューバ、ベトナムをつくる」と、大臣だったゲバラさんは当時、民族解放闘争が嵐の中にあつたアフリカへ、そしてゲバラの祖国ラテン・アメリカ（南米のボリビア）へと旅立ち、反米闘争の先頭に立ちました。ボリビアでの活動の記録が、今でも版を重ねている『ゲバラ日記』です。

ゲバラさんがカストロに「別れの手紙」を書き旅立った時、キューバ社会主義を一日もはやくせん滅したくしようがなかった米国は、「キューバに党派闘争が始まった。キューバ共産党の分裂だ」とわめきまくりました。事実はそうじゃなかったんです。カストロは、「私はキューバに確固たる社会主義国家をつくる。君は世界を動き回り、ぼくを支援してくれ。君がやりたいことはぼくがやりたいことだ」と、二人の友情はマルクスとエンゲルスのように結ばれていたのです。

米国のキューバ攪乱、破壊策は失敗しつづけました。キューバ革命から四十七年の年月が流れました。大男のカストロさんも八十歳となり、彼が師と仰ぐシモン・ボリバル（ラテンアメリカ民族解放運動の旗手）、ホセ・マルティ（キューバ独立の先達）、マルクス・エンゲルスの齡（よわい）をすでに超えるまになりました。

カストロは精神、志は青年です。肉体は老人です。だから彼は、ここ数年、「マルクス、エンゲルス、レーニンと話しをする時期は遠くない。生あるかぎりたまたかい続ける」とキューバ国民、ラテンアメリカ人民に語りつづけてきました。しかし、カストロの精神、志はこの数年さらに若返っておりました。中南米諸国はむろん世界中に反米・民族解放独立の動きが際立ってきたからです。典型は足元の中南米諸国、とりわけベネズエラのチャベス、ボリビアのモラレスの登場です。米国の支配に抗し、カストロさんを中心に団結力を高めているからです。

カストロの動静にもっとも敏感なのが、過去五十年、カストロ暗殺を執拗（しつよう）に狙い、失敗しつづけた米国です。米国はカストロの一挙手一投足を追い、折りあらばとキューバ圧殺をねらっているのです。

カストロが手術で入院、全権を弟のラウロ・カストロに委任したとのニュースが流れたのは八月始めです。米国は「カストロは重態。ラウル（カストロの弟。国家評議会・第一副議長）も高齢。カリスマ・カストロ亡き後、キューバの混乱必至」と、新たなキューバ包囲網づくりに着手しています。米国の思惑どおりことは進むでしょうか

（滝野 忠・つづく）

小泉構造改革路線に反対

自治体労組、そして全労協

司会 自治体、国家公務員、独立行政法人とされた労働者への攻撃はすさまじい。自治労として自治労連はどういう方針を提起しているのか。

公務員制度改革、総人件費削減に抗して―自治労

E 自治労は中間大会とあって、〇七年度年間行動計画、当面の闘争方針、それに第二次貸金政策が組織討議案に提起された。

まず年間行動計画の基本的考え方だが、小泉構造改革への対抗軸として①市民ニーズに基づく効率的・効果的な公共サービスの実現、②参加と自己決定・責任による対等・平等な労使関係の確立をあげ、〇七年に予定される統一自治体選挙、参院選挙をつうじ「民主・リベラル勢力の前進により、政権交代への道筋を確実」なものとしたとする。

年間行動計画の重点課題は十二項目。主なものは①労働基本権確立、民主的・分権的な公務員制度改革の実現。労働基本権等に関する専門調査会対策の推進、②政府が進める総人件費削減に反対し、人事委員会対策をはじめとする二〇〇六自治体確定闘争推進、③地方税財政制度の確立、地方分権改革の推進、生活と権利の基盤となる地方政府を実現する自治体改革運動の展開、④「小さな政府」路線に抗し、「良い社会をつくる公共サービスキャンペーン」の全国的な展開、⑤臨時国会・通常国会対策を通じた平和、人権、憲法改正問題に対する取り組みだ。

当面の闘争方針は十五項目でつくられている。柱は①公務員制度改革、②自治体改革運動の推進と公共サービスの規制改革に対する取り組みだ。

司会 公務員制度改革では七月、「公務・公務員及び労使関係に関する専門調査会」が政労協議で設置された。それへの評価、基本のポイントはなにか。

E 専門調査会設置を①国際労働基準に即した公務労働・労使関係制度への改革を進める重要なステップ、②労働基本権の確立を中心とする民主的で透明な公務員制度改革の実現にむけ、専門調査会への対応を重視するというものだ。

七月二七日おこなわれた調査会では佐々木毅(元東京大学長、21世紀臨調共同代表)を座長に選出、月一回程度開催。検討事項は①簡素で効率的な政府における公務の範囲、②それを担う従事者の類型化とそれぞれのあり方、③以上を踏まえた労働基本権を含めた労使関係のあり方とされた。①にたいする自治労の基本的な考え方は「国際労働基準に即した公務労働・労使関係制度の確立を基本とした新たな公共サービスのあり方、効率的で効果的な公共サービスと市民に信頼される自治体の実現」だ。

検討課題②に対応するのが「自治体改革運動の推進と公共サービスの規制改革―指定管理者制度、市場化テスト、アウトソーシング等―に対する取り組み」だ。政府の意図する公共サービス、ワークルールに対案をぶつけているのが特徴で「公共サービ

ス五つの基本」「公正ワークルール二つの基本」を軸に世論形成を進めるとする。

「公共サービス五つの基本」とは①持続可能な質の高い公共サービスの確保は政府の責任、②サービスの利用者がサービスの質を評価できるよう、手法確立、③サービスの利用者である市民の評価への参画確保、④サービス提供労働者・労働組合の評価への参画確保、⑤公正な競争と社会的評価（ノーマライゼーション、男女共同参画、環境保全など）の実現。「公正ワークルール二つの基本」とは①ILO 94号条約を批准し、公正労働基準や均等待遇を公契約の原則とする、②事業移転にもなう雇用継続を基本ルールとする「事業譲渡にもなう労働者保護法制（仮称）」を実現するというものだ。

国会 憲法問題などへの対応はどうか。

E 「憲法前文、九条を堅持する」が基本姿勢。与党の国民投票法案については「拙速、法案に問題点も多い」から「反対」。平和基本法には連合や各政党の状況を見極め「慎重に検討」との立場だ。私鉄総連のように必ずしも明確じゃない。

組織統合効果めざす―自治労全国一般

国会 全国一般は今年一月一日、自治労と合同し「自治労全国一般評議会」として新たに出発した。八月末、総会を開いているよね、議案のポイントはなにか。

E スローガンにすべて言い表されている。メインスローガンは「組織統合効果を發揮し中小労働運動・地域共闘の強化 平和・民主主義の前進をかちとろう」。サブスローガンは①二極化社会を拡大する市場優先主義反対！ あらゆる格差・差別に反対し、賃金引き上げ・労働条件の向上を実現する春闘を再構築しよう！ ②働くものと中小企業への犠牲を強要する規制緩和政策に反対し、働くものの権利・尊厳の確立、中小企業政策の拡充をかちとろう！ ③憲法九条改悪反対！ 集団的自衛権の行使・有事体制づくり反対、統一地方選と参議院選挙に勝利し、平和と民主主義を守ろう！ など六本からなる。

全国一般評議会最大の課題は自治労との統合効果を高めること。そのため、自治労との「統合協定書」にもとづき、①人的交流と組織間の共闘、共同行動、②情報交換、相互理解を基盤とした信頼醸成、③相互理解を基盤に共同行動に取り組むためにも、自治労県本部との間の「県連絡会」をすべての県で設立し、〇九年一月の組織完全統合を達成したいというものだ。

国会 全国一般さんが自治労と統合の道を選んだのは今でも残念に思っている。私鉄さんなどと並んで日本労働運動の「宝」のような存在だったからね。ぜひがんばって欲しい。

自治労、全国一般は参院選はどうするの。

E 基本は①民主・リベラル政治勢力の総結集、②民主党を基軸とする連合の統一対応、③民主党を中心とするリベラルな政治勢力が次期総選挙で自民党政治に代わる新たな政権を構築するための展望を切り開くと、参院選に北海道から非常勤職場出身の女性を擁立することを決めている。

四つの基調―自治労連

司会 全労連傘下の最大組合である自治労連も八月末大会開いたよね。

E 運動方針は全労連の基調をもとに、その自治体版としてつくられている。運動の基調は四つの基調と運動の重点課題からなる。

四つの基調は①憲法・教育基本法の改悪を許さず、くらしと地域・自治体にかす運動を、自治体労働組合の存在意義をかけて進める、②「公共性」の再生、格差と貧困、地方切り捨ての是正と、総人件費削減攻撃とたたかい、すべての公務・公共労働者の要求実現をめざし、「こんな地域と日本をつくりたい」との対話と共同を進める、③組織の強化・拡大三十万自治労連をめざし、「自治労連組織拡大専任者」の配置や非正規・関連労働者の「センター的機能」を強める、④〇七年のいっせい地方選挙、参議院選挙では、憲法を職場・地域に生かす民主的自治体の建設と、憲法改悪や小さな政府に反対し、私たちの要求実現のために奮闘する勢力の躍進をめざす。

重点課題には①憲法・教育基本法改悪反対署名、②大増税と国民・住民負担反対運動、③自治労連提言「こんな地域と日本をつくりたい」での共同など十七項目です。運動方針はじつによくできている。問題はどうか実現していくかですね。どの組合にも云えることですね。

司会 組織人員はどうですか。

E どこも同じ、組合員はふえちゃいない。組合費納入人員を十三万七四〇〇人、前年マイナス五一〇〇人で予算をたてている。ちなみに自治労は一〇一万人だ。

「合理化」にウメキと悲鳴

司会 自治労、自治労連とも小泉構造改革反対、労働基本権回復を前面に押し出している。共同のたたかいは十分あると思うのだが、なかなか難しい。

E 政党支持問題がからみまずからね。

司会 自治労大会は今年は中間年大会だったそうですね。どれくらいが参加されたのですか。

E 代議員など四千五百人。

司会 さすが日本一の組合だ。スケールが違う。大会の雰囲気はどうか。

E 大会冒頭の委員長あいさつ、「労働基本権回復のたたかいは新たな段階に入っている。交渉力強化が急務。較差や差別を拡大する小泉構造改革に対して、われわれは安心して暮らせる『あるべき社会』を作っていくかねばならない。労働組合としてそうした社会的責任を果たすためには、日々の取り組みで信頼を得ていくことが必要。組織の透明性を高くし、強い使命感をもって、将来ビジョンに向かって一丸となつてたかおう」につきています。

司会 交渉力強化、組織の透明性等、今の労働組合を象徴するかのようですね。論議はどうだったのか。

B 町の民主化闘争勝利の報告他、アウトソーシング、指定管理者制度、市場化テス

トでの雇用不安、とりわけ人勧の官民比較方法見直し労働条件切り下げの報告が相次いだ。代議員は「大衆運動の提起を」と求めたが出てこないところにイラダチがある。

司会 大会はたしか埼玉県のさいたま市だったよね。プール事故が起きたふじみ野市は埼玉だよな。

B ふじみ野市には自治労組織がない。委託は丸投げで無責任体制になっていたことが明らかにされ、県本部は下カゲのしつぽ切りにはさせないとの決意を表明した。

司会 他になにか。

B 人勧、地域間格差賃金、憲法九条でたたかいと路線をもっと明らかにせよとの意見が特徴だ。

活発だった全労協大会

司会 全労協大会は活気があったと聞いています。

D そうです。昨年九月一五日の判決は全労協の結成時点の雰囲気と取り戻す役割を果たした。全労協は国鉄闘争勝利を結束軸につくられた組織です。久しぶりにみんなの気持ちが一つになった大会だったと思う。

議長の藤崎氏は「国鉄戦線の大同団結を支持、年内解決に向け国労など四団体―国労・建交労・中央共闘・共闘会議―と連携し全力を上げる」と檄をとばした。国鉄闘争については本誌で多方面からふれられていますから、これ以上くわしく申し上げることもないと思います。

全労協に加盟する諸組織は「たたかい」で自己を主張し、かつ労働運動の原点である職場からの労働運動再生を使命とされていますから、今日の情勢にあつて、「私たちの出番」の時の意気込みにあふれていらした。

司会 運動方針全体の特徴はなにか。

D スローガン「広げよう全国へ 自立と創造、労働者の生活と権利 人権と平和を闘い取る全労協運動を！ 非正規労働者の権利確立、均等待遇を実現しよう！ 小泉構造改革反対、労働法制改悪反対！ 憲法改悪反対 教育基本法改悪反対 米軍再編反対！」にすべてが示されています。

運動の柱は①国鉄、②権利、③憲法、④労働法制だ。

司会 連合、全労連、全労協ともに「小泉構造改革」反対、市場万能主義批判、労組の原点は職場・労働組合員を大事にすることと、表面的には政治問題を除き一致している。「ともに闘おう」との呼びかけがあつても不思議じゃないと思われるが、どうしてそうならないんだろうか。

A 幹部はイデオロギーに支配されている。そして、組織間の不信。それに選挙での政党支持がからむ。これを打ち破るには下からのウネリなしには目下のところ、現状が続く。

司会 下からのウネリの見通しはどうか。

B 地方の荒廃、高齢者への搾取強化には明らかに怒りがみえる。だが、他は眠りからさめていない。残念だが現状はそうだ。

司会 九月から旧同盟のゼンセン、J.Cの自動車、基幹労連の大会がおこなわれる。ゼンセンは連合会長組合、自動車は電機とともに連合の中心だからおおよそわかる。今回は労働運動全般についてAさんから報告してもらい、みなさんの感想をいただきながら、このシリーズを終えたい。(つづく)

◇資料 ジョン・スウィニー会長は「反ブッシュ」の連携を呼びかけた◇
「どの国も、強い製造業の基盤を持つことが大切だ」

連合との定期会談のため来日した、AFL-CIO（アメリカ労働総同盟産別会議）のジョン・スウィニー会長が七月二十六日、JILPT・連合共催の国際フォーラムで講演。ブッシュ政権のもとで悪化する労働環境、今秋の米国中間選挙にむけた戦略などについて語った。

AFL-CIOは、昨年七月の結成五〇周年の年次大会でSEIUやティームスターズなどの有力産別が脱退を表明して分裂。スウィニー会長は、その大会で四回目の再選を果たした。その後の経緯や影響はどうなのか。講演会場には、定員を超える参加者が詰めかけた。スウィニー会長の講演、そして質疑のやりとりを紹介する。

ブッシュ政権の無謀な通商・貿易政策によって世界経済は、持続不可能な破綻的狀況に追い込まれている。この危機を乗り越えるために、すべての国の労働組合のリーダーが一致協力して、貿易ルールの変革を実現しなければならない。

貿易赤字は一日二〇億ドル

現在、アメリカの財政はブッシュ政権下で増長する貿易赤字によって破綻の危機に直面している。今年五月の貿易赤字額は、六三八〇万ドル、昨年一年間の赤字総額七二六〇億ドルに匹敵する大きさだが、その大部分が、対中国、対日本との貿易で発生している。いまやアメリカは、物品購入のために一日二〇億ドルの借金をしている計算だ。

これは、もちろんアメリカ自身の政策の失敗によってもたらされた問題だ。市場万能主義を信奉するブッシュ政権は、雇用の創出、よきコミュニティの創出、平等で民主主義的で持続可能な開発に失敗した。アメリカの長期的な国家安全保障権益の保護にも、他国に対する安全保障のコミットメントの能力においても、アメリカの生産者、労働者の競争力の向上にも失敗した。そして、アメリカの労働者とその家族の生活に深刻なダメージを与えている。

四万か所二九〇万人の雇用喪失

二〇〇〇年のブッシュ大統領就任以降、製造部門では、四万か所二九〇万人の雇用が失われた。これは製造部門の労働力の一七％にあたる規模だ。また情報・通信部門では、七二万五〇〇〇人の雇用が失われた。通商・貿易政策の失敗が、アメリカの製造業の基盤を直撃し、それは結果的に国家安全保障にも、そして同盟国の安全保障にも深刻な影響を与えている。

失われた雇用に対して、新たに用意される雇用は、パートタイマーなど、低賃金で福利厚生も脆弱なものばかりだ。エンジニア、科学者、技能労働者の多くが、今週は商業製品生産に携わり、翌週は防衛のアプリケーションのために仕事をするといった状況にある。生産と技術革新の絆が断ち切られてしまっている。大学の工学部を志望する学生も減少している。高学歴の失業が広がり、実質賃金は下落している。健康保険を持たない世帯が増え、自己破産者は後を絶たず、富裕層と勤労者層のギャップが、かつてなかったほど大きく開いてきている。

脱退工作や妨害工作も

世界市場の競争で勝つために、生産を海外に移転するというアウトソーシングを急激に進めた結果、私たちは多くの質のよい仕事を失った。企業は、労働運動が勝ちとってきた賃金や社会保障給付に攻撃を加えはじめ、さらには労働組合の基本権まで脅かそうとしている。

年金や医療給付を打ち切りたいばかりに、みずから「倒産」する企業が相次いでいる。組織されている組合員に対しての脱退工作や組織化に対する妨害工作も行われている。アメリカの労働法は

そういう攻撃から労働者を守るには、あまりにも弱体だ。

これまで労働組合が基盤としてきた分野で雇用が大量に失われていることに加え、反組合的な活動の影響で労働組合組織率は年々低下し、それにもなって労働組合の政治的な力も弱体化化している。

私たちは、産業基盤を維持し、通商貿易政策を転換することを求めているが、現状では、それは非常に困難な状況だ。

危険を知らせるカナリアに

私はきょう、ルールなきグローバル経済と貿易不均衡が、いかにアメリカの労働者とその家族の生活を破壊したかを申し上げた。それは、この流れを放置すれば、日本の労働組合、労働者とその家族のみならず、やがては同様の危機に見舞われると思われるからだ。

日本は、数年遅れてアメリカの足跡を追っている。もちろん日本の労働組合は、企業に対してある程度のコントロールを持っている。工場閉鎖に対して緩衝剤になるような法律もあるし、労働法もきちんと機能していると思う。しかし、グローバルな経済が瓦解してしまつたら、日本のシステムも瓦解してしまう。いま、アメリカに起きていることは、日本にとって炭鉱で危険を知らせるカナリアにたとえられるだろう。

グローバルに暴利をむさぼる多国籍企業の暴走を封じ込めるために、私たちは協力していかねばならない。市場万能主義者は「重工業生産や労働集約型産業は中国やメキシコなど低賃金の市場に移せばいい。アメリカや日本では高技能の頭脳労働やサービスの雇用を維持すればいい」と言う。でも、そんな言葉を信じてはいけない。どの国も強い製造業の基盤を持つことが大切だ。それによつてはじめて中産階級を維持し、労働組合運動を展開することができる。

しかし、事実はまさに反対の方向に進んでいる。このままでは、消費大国であるアメリカや日本においても、いずれ大多数の国民が消費する力を失うことになるだろう。

中間選挙を転換のチャンスに

AFL-CIOは、いますべての国の労働者の利益に適うような解決策を求めて闘っている。多国籍企業に対しては、国際労働基準、貿易ルールの遵守、第三世界の公平な経済的発展のための配慮を強く求めている。ブッシュ政権に対しては、われわれが責任をもって対処する。今秋に予定されている中間選挙こそ、アメリカの方向を大きく転換し、労働者とその家族の権利を取り戻すチャンスだと考えている。

世界の流れを変えるために、日本の労働組合とのさらなる協力、連帯を呼びかけて、メッセージに代えたい。

パワー（権力）とコントロール（支配）をめぐる確執があった

Q AFL-CIOは昨年の大会で分裂した。分裂の背景には改革路線をめぐる対立があったと伝わっているが、AFL-CIOと新結成されたCTWの違いはなにか？

A ジョン・スウィニー会長

脱退の前に議論していたことは二つある。新しい組合員の組織化戦略についてと、政府の政策を変革する力について。あえて言えば労働組合としての活動に積極的な組織と、どちらかといえば政治的活動、選挙闘争に積極的に取り組む組織がある。今回の脱退の背景には、一つはそういうスタンスの違いがあったのかもしれない。私は、政治的課題における労働組合の連帯は重要だと考えているし、昨年の夏以降もそのように努力してきた。現在、ローカルレベルでは、CTWとともに行動するメンバーが数百万人規模でいる。ブッシュ政権の政策を転換させるといふ政治的課題を成功させるためには、労働組合運動を統一していくことが重要であり、十一月の中間選挙にむけて活動を強化していかなければならない。

なぜ、去っていったのか、その理由はいまだ明確ではない。私の推測としては、労働組合運動内のパワー（権力）とコントロール（支配）をめぐる判断が働いたのではないかと思われる。しかし、理由はなんであれ、分裂は、労働運動全体の力を削ぐものだ。労働運動統一の重要性を訴え、再び合流できるよう、今後も努力していきたい。

『月刊連合』九月号より転載

安倍政権の登場と参議院選

—安倍君は総理大臣たりうるか—

「亡霊」の復興

安倍晋三が九月二〇日自民党総裁、九月二六日総理大臣となる。彼は元自民党幹事長の晋太郎を父とし、東京裁判でA級戦犯とされながら一九五七年総理大臣となり、憲法改悪を政策とした岸信介の孫となる。佐藤栄作（岸の弟で一九六五〜七二年総理大臣）は大叔父である。二世、三世がのし歩くのが日本政界の最近の特徴だ。鳩山兄弟は、やはり第二次世界大戦後の日本で憲法改悪を主張した一郎の孫であり、政界再編の導火線・小選挙区制をかつての昭和研究会の戦後版・民間政治臨調で導入し、反動政治の元をつくったのが、A級戦犯だった近衛文麿の母方の孫・細川護熙だ。

安倍に対抗し二人が総裁選に起った。その一人である麻生太郎は元総理大臣・吉田茂の孫。吉田と岸は縁戚（えんせき）関係にあるから、安倍晋三と麻生太郎は遠戚となる。ここにみたように、現代日本政治は大正デモクラシー、原敬の政党政治以降、日本を「ファシズムと戦争」の時代に導いた過去の亡霊どもに、再びのつとられた状況にある。

旧自民党の鳩山、岸一族は分裂・再編された新しい保守党、自民党と民主党と党派こそ違え、「おじいちゃんの悲願だった、憲法改悪をおれたちの代でやるからね」と墓前に誓っているに違いない。

政治家と軍

すでに十数年にもなるだろうか。友人と「つまらぬ」論争をやった。友人は「憲法教育で育った戦後世代は憲法改悪、ファシストになることはない」と云い、私は「戦争を知らないわれわれの世代こそ危ない」と。最後は「いずれ歴史が教えてくれるよ」と別れた。旧世代の中曽根、宮澤そして故・後藤田は内務官僚、経済官僚として「ファシズムと戦争」を謳歌、経験した輩だ。「国体」思想は彼らの血・肉としてあったに違いない。軍は一糸乱れぬ「統制」、上意下達を旨、組織原則とする。彼らはそうした軍の専横から生き延び第二次世界大戦後の栄達を得た。

政治家にとって官僚どもの「接待」、とりわけ防衛庁から栄誉令を受ける時は特別のものであるらしく、天にも上ぼる快感を覚えるものであるらしい。政治家は「彼らをおれが使うのだ」と。常備軍そして官僚機構は国家権力のもっとも大きな装置だ。その装置と上に立つ高級軍人・官僚どもは最敬礼で二世三世の政治家どもにも出入りする。安倍君や麻生君、さらには鳩山兄弟は軍、軍人を飼犬のポチのように考えるのは、当然のこととなる。

親が政治家でなければフリーター？

安倍君はどんな経歴の持主か。生まれは一九五四年だ。上流階級のニート、フリーター生活の後―小泉君はよくいつてくれましたよね人生いろいろ、会社いろいろなんて。それが彼らの人生・生活の始まりなんです―一九八二年（二八歳）からオヤジ晋太郎の居候生活だ。

晋太郎は外務大臣（一九八二）、自民党総務会長（一九八六年）、自民党幹事長（一九八七年）とトントン拍子に出世する。晋三君は「秘書官」という名のパラサイト。晋太郎の死（一九九一年）後の九三年、晋太郎の「後継者」として立候補、「先生」になる。二、三世議員はみんなそうなんですから。

小泉君に気に入られ、安倍君は幹事長、官房長官とトントン拍子の大出世。小泉の人氣にも助けられ、数多い自民党議員の中でもタレントなみの人氣を得、アツという間に総裁・総理の座を射止めることとなった。

日本の国柄は天皇制

彼の実績はなにか。なにもない。「らち」被害者を「援助」し、北朝鮮への強硬発言をくり返しただけだ。安倍の後見人・小泉は「自民党をブツ壊す」と人氣を得たロンペン政治家。それにたいし安倍君は「氣の弱い」おぼっちゃま。それは、『美しい国へ』にも明らかだ。彼には考え抜かれた人生観、世界観、哲学はない。じいさん、おやじ、そして自民党を脈々と貫いてきた保守思想だけだ。具体的にはこうだ。

「本書は、いわゆる政治提言のための本ではない。わたしが十代の頃、どんなことを考えていたか、私の生まれたこの国に対してどんな感情を抱いていたか、そしていま、政治家としてどう行動すべきなのか、を正直につづったものだ」（あとがき）。

安倍はどんな「家庭」で育ったのか。じつに率直に語って恥としない。

「日本の国柄をあらわす根幹が天皇制である」（一〇一頁）

「一九五一年のサンフランシスコ講和条約の締結によって、形式的には主権を回復したが、戦後日本の枠組みは、憲法はもちろん、教育方針の根幹である教育基本法まで、占領時代につくられたものだった。国の骨組みは、日本国民自らの手で白地からつくりださなければならぬ。そうしてこそはじめて、真の独立が回復できる」（二八〜二九）。

「外国の軍隊では、当然のこととして認められていること（集団的自衛権・筆者）が自衛隊では認められていない」（一四三頁）、

「日本も自然権としての集団的自衛権を有していると考えるのは当然。権利を有していれば行使できると考える国際社会の通念のなかで、権利はあるが行使できない、とする論理が、はたしていつまで通用するであろうか」（一三二頁）

安倍君は自ら学習した経験がない。繰り返すが、ジイさん、オヤジさん、そして自民党に脈々と受け継がれつづけた「常識」を「受け継い」でいるのみだ。それは政權公約「美しい国、日本」にも明らかだ。具体的には何もない。「文化・伝統・自然・歴史を大切にす国」が、「美しい日本」というのだ。ならば問う。「文化・伝統・歴

史」とは何か。「自然」を大切にしない国はあるかと。安倍君の知能はこの程度のものだ。九官鳥に少しばかり舌をつけたようなものである。

安倍君の「つたなさ」をよく知るのが後見人の小泉だ。小泉に政策はない。この面で小泉は助けられない。助けられる道は何か。「朝からテレビ」でタレント稼業に進めることしかあるまい。本人の人氣は維持できる。しかし、安倍君の人氣は？小泉は唯我独尊、義理と人情には無縁な御仁。「安倍君は自ら総理・総裁を決断したんでしょう。自分の力で進路を切り開きなさい」となるのではないか。

天王山―参院選

政局は十月の衆院二つの補選。そして四月統一地方選、七月参院選にすでに移っている。

衆院補選は千葉と大阪の二小選挙区だが、ポイントは「安倍ご祝儀」選挙となるかどうか。

四月統一地方選はこれまでの選挙と大きく異なる情勢下でおこなわれる。市町村合併で前回〇三年の全国三千二百自治体は千八百九十自治体に減った。地方議選のおこなわれる自治体は八百七十四自治体で統一率は前回比マイナスイ・二五%の四六・二四%と五〇%を割った。議員数はそれに伴い五万六五三三人から一万七五九一人も激減し、三万八九四二人となる。地方議員は生き残りをかけたすさまじい選挙となる。勝った議員は一息次いで七月参院選である。

小泉は自民党をブッコロスと宣言し自民党総裁になった。自民党員は自民党支持基盤を壊す人を総裁に選んだ。自民党はじつによくぶっこわれた。その典型が昨年衆院選での「郵政族」議員排除、首切りである。さらに独占資本の意向にそった、構造改革、規制緩和路線 推進で農村から都市まで広く厚い層からなっていた自民党支持基盤を独占資本の党に変えてしまった。その結果が、党員数の激減である。

一九九七年、党員は三百三十六万人いた。〇三年は百四十万人となり、今回〇六年には百六万人にまでしぼんでしまった。民主・小沢は切り捨てられた自民支持者を拾い集める。その結果を問うのが参院選である。

参院選は民主・小沢、自民・安倍を先頭に政権・権力をかけた選挙としてたたかわれる。二大保守政党の中にあつて苦戦するのが共産党・社民、そして新たに議席を得たいとする政党、組織だ。後者は「反改憲、反構造改革」の共同戦線をもさくする。共・社民は党の生き残りをはかる。共産は最低限の票は読める。社民は幹事長当選は絶対的使命。護憲の戦線分断となる。民主、自民は改憲政治、「反改憲」の広範な戦線づくりは、これから始まる憲法をめぐる政治戦線のカギとなる。

◇ 読者からのおたより ◇

クセのある著者 暑い夏、仕事（三つほどのプロジェクト）、仕事です。息ぬき、『逆説の日本史』

(井沢元彦)を読んでいます。クセのある著者ですが、考えさせられる視点が多々あります。

(山形・I)

編集部より 井沢さんの文章、いわば高等数学みたいなんですね。基礎がないとごまかされてしまいます。かつて古代史に古田敏彦さんという方が登場されブームを巻き起こしましたが、それと同じです。日本古代史、埃(ほこり)にまみれた書物がまだ残っています。もらっていただければ嬉しいのですが、いかがでしょう。

指針 連日の活躍ご苦労さまです。生き方、考え方の指針として「社会通信」活用させていただいています。(福島・O)

編集部より 嬉しいお便りありがとうございます。Oさんもぜひ原稿よせて下さい。

さらに「活躍を 残暑お見舞い申し上げます。毎日暑い日が続いています。お元気にてご活躍下さい。よろしくお願ひします。(鹿児島・K)

編集部より こちらこそよろしく。九月に入って太陽が顔を出すようになりました。社会運動に陽をあてるため、これから勝負!

「恩返し」に 解決局面といってもみな、やりくりしながらですが、何としてもお世話になった皆さんに恩返しのような解決を勝ち取ります。(音威子府闘争団・杉山)

編集部より だれよりも家族の皆さんとあなたたちのために。私たちもお相伴にあずかれば嬉しい。とにかく力ふりしぼつてよ。(増田 都子)

市名変更から三年 ギリギリになりましたが、種々お世話です。「紋」と「国・家」の意味で、作文と思ひながら、「とき」に追われてなかなかです。なお、住所は島、市で変わって三年に入っていますので、合わせてよろしく。(佐渡市・K)

編集部より 「作文」ぜひお願い。首を長くして待っています。住所はすぐに変更します。

学習会 秋の講座も近くなりました。またお世話になります。峡東地区(山梨県)の学習会も始めました。助言をいただくこともありませうので、その節はよろしくおねがいます。(山梨・U)

編集部より 私にも出来ること、なんなりとお申し付け下さい。たのしみです。
「ナンジユウ」してませう 遅くなりましたが送金します。紙代回収に「ナンジユウ」して下さうかと
とりあえずの金額を送金します。年内分は私から送金し、来年からは個人購読に切り替えようかと
考えています。(自治体労働者・H)

編集部より ご送金ありがとうございます。個人発送への切り換え、最近ふえています。理由は「合理化」です。紙代は送料ふくめ一年八千四百円です。よろしくお願ひ申しあげます。

TOBと労組の不思議 王子製紙が北越製紙にTOBを仕掛けたニュースが話題になっております。王子側の狙いは自社の老朽設備を廃棄して北越の新工場に経営資源を集中させることにあると報じられております。業界最大手とされる王子ですが、これで合理化がいつそう進むのは必至。労働者の「廃棄」に抵抗運動が報じられないのが残念です。(埼玉・G)

編集部より 集中と合併ですね。王子の買収劇は当面挫折。でも次から次へとあらゆる産業・業種でおこることは必至。ホリエモン、村上ファンドは特殊じゃありませんもの。おっしゃるよう
に労組の存在感が問われます。それに労働者の。(増田 都子)

苦闘 CS活動(旅客満足)と〇七年三月導入のエムカード・パスモの教育で苦闘しております。(東京メトロ)

編集部より すさまじい合理化で受益者負担は増大の一途。その裏側の働き手の実態、うまい宣伝の仕方を開発しなきゃいけない時ですね。

署名増加! 本日は明治公園で行われた「ワールドピースナウ」の集会で「解雇撤回」の署名集めをしました。午後一時間からはじめて2時過ぎまで、三人で署名集め、三人でピラマキ、我孫子の「平和つむぎの会」の若い方も手賀沼カッパの扮装で『9条を守れ』の旗を持ちながら、署名を集めてくれましたので、合計二一八筆、今、手元にあるのを総計すると、三九九四筆! となりました。ご協力、本当にありがとうございます! 一六日は渋谷勤労福祉会館で行われる『共謀罪反対集会』で、話させていただきます! 今後ともご協力よろしく! (増田 都子)

編集部より あなたの凛としたお姿、訴えに心を動かされぬ者はおりません。一六日は出来る限り出席します。